

現代アメリカ英語文化の中の医療語

田中芳文

Medspeak in Present-Day American English and Culture

Yoshifumi TANAKA

概 要

米国の現代小説, ノンフィクション, 新聞, 雑誌などに登場するいわゆる医療語の具体例を取り上げて検討し, それらを研究することの重要性を指摘した。

キーワード: 医療語, 病院俗語, 現代アメリカ英語, 現代アメリカ文化

I. 序 論

日本でも人気のミステリー作家 Patricia D. Cornwell の検屍官シリーズ第3作の邦訳に次のような場面がある。

「ゆうべはちゃんと睡眠をとっただろうね」エレベーターの戸が開くと、フィールディングがおどかすように言った。

私たちはエレベーターに乗った。

「悪い知らせを聞かせて。今朝は何と何があるの？」

「解剖が6件。どれも殺しの被害者だ」

「ありがたいわね」私は不機嫌に言った。

「そう。ナイフと銃の会が週末に大活躍してね。射殺が4件に刺殺が2件。春が来たんだな」

(相原 訳)[下線は筆者]

ここで問題となるのが下線部の「ナイフと銃の会」である。前後関係から推測すると、「ナイフと銃の会」という犯罪組織らしきものが大暴れして多くの被害者が出たようにも受け取れる。

さて、原文は次のようになっている。

“Hope you got a good night’s rest,” Fielding warned as the elevator doors parted. We stepped inside.

“Give me the bad news. What have we got this morning?” I said.

“Six posts, every one of them a homicide.”

“Great,” I said irritably.

“Yeah, the *Knife and Gun Club* had a busy weekend. Four shootings, two stabbings. Spring has sprung.”

— *All That Remains*, pp. 345–346

ここに出てくる *Knife and Gun Club* とは、病院俗語で「都市のスラム地区にある病院、特に緊急救命室(emergency room)」のことである。ナイフや銃による負傷者が搬送されてくることが多いことからそう呼ばれるのである。knife と gun の語順が逆になった *Gun and Knife Club* や, knife の代わりに rifle を使った *Gun and Rifle Club* という言い方もある

(cf. Chapman 1995, Green 1987, Pourroy 1995)。したがって、この場面では、「病院の緊急救命室が週末は忙しかった」のであり、邦訳にある「ナイフと銃の会が週末に大活躍」は誤りである。

このような病院俗語を含めたいわゆる医療語 (Medspeak) を研究することの重要性はこれまで何度か指摘し、その具体的な事例も検討してきたが(田中 1997, 田中 1998 など)、取り上げるべき語や表現はまだ数多くあると思われる。本稿では、米国の現代小説、ノンフィクション、新聞、雑誌などに現れるいくつかの語を取り上げて検討することにする。

II. 本 論

1. aveinic

About an hour later, I was still in the nurses' station when the intern came at me. "I can't get it," he said.

"Can't get what?" I asked.

"I can't get the pre-op bloods. I've stuck this kid at least ten times, and I haven't gotten a single drop out of him. The kid's *aveinic* [medicalese for 'having no veins']."

—*Rotations*, p. 68

この *aveinic* という語は、*a-*(「無...」の意味の接頭辞) + *vein*(「静脈」) + *-ic*(「...の性質の」の意味の形容詞を作る接尾辞) から出来上がった語であると考えられる。つまり、「(採血や静脈点滴の必要がある患者の)静脈が見つからない」という意味で使われる語である。例えば、未熟児などは、腕が非常に細くて血管を見つけることが困難である。

2. CCU

医療関係の語で *CCU* といえば、冠状動脈疾患集中治療室(coronary care unit)や心臓疾患集中治療室(cardiac care unit)を表す略語で

あることはよく知られている。しかし、実際の米国の病院で、*CCU* がそれら以外のものを表す場面に出会うことがある。例えば、Children's Hospital and Regional Medical Center (Washington 州 Seattle) には *Clown Care Unit* と呼ばれるプログラムがある。これは、New York の Big Apple Circus が全米の病院(特に子供病院や小児科病棟)で行う地域福祉活動プログラム (community outreach program) である。訓練を受けて医師に扮したピエロ (clown) たちが、曲芸、パントマイム、手品、楽器演奏などによって、入院している子どもたちに週に3~5日程度サーカスの興奮や楽しさを伝えて、病気による不安やストレスを和らげようとするものである。そのようなピエロたちの訪問は医師の回診 (medical rounds) に例えて *clown rounds* と呼ばれる。

Dodge performs as part of a 50-person *Clown Care Unit* operated in 10 East Coast hospitals by New York City's not-for-profit Big Apple Circus, which requires that all prospective clowns undergo a six-week training program.

—*People*, Mar. 2, 1998, p. 121

3. First Responder, first responder

病人や負傷者の救助や治療の仕事、つまりレスキュー(rescue)の仕事に係わる人たちを分類するのに、Cowan and Cowan(1998)は *LAST* という頭文字を使っている。*LAST* とは、(i) Those Who Locate, (ii) Those Who Access, (iii) Those Who Stabilize, (iv) Those Who Treat のことであり、(iii)の「患者を安定させる (stabilize)」役割を果たすのが、*First Responder* と EMT (emergency medical technician) である。EMT についての辞書の記述に問題があることは、田中(1998)で指摘した。

First Responder (または *first responder*) は、次の例にあるように米国の新聞でも日常的に見かける語であるが、一般の辞書には情報が無い。



資料1 CCUのclownたち

米国のほとんどの州において、*First Responder* とは、基本的な応急処置法(first aid)と心肺蘇生術(CPR)についての講義とトレーニングを40時間以上受けた人のことである。警察官や消防士、あるいは救急医療サービス(Emergency Medical Service)に係わるボランティアがこの資格を持っている場合もある。*FR* という略語で表されることもある(cf. Segan 1995)。

Other rural Oklahoma fire departments are having a similar reaction to the proposed regulations, which would increase training for *first responders*. Many *first responders* work for Oklahoma's 200 ambulance services.

—*The Daily Oklahoman*, Mar. 2, 1998, p. 3



資料2 *First Responder*用の bumper sticker

4. full moon

“Kristen, would you give me a quick moon check?” he asked, dashing off prescriptions and clinic referral forms for several patients at once.

“*Full moon* tomorrow,” the nurse said. “Can’t you tell?”

Eric glanced up at the waiting room, which was nearly packed.

—*Extreme Measures*, p. 81

これは、治療に忙しい医師の Eric が看護婦の Kristen に緊急救命室の様子を尋ねている場面である。“moon check” をするように頼む医師に、看護婦が「明日は満月よ」と、一般人には分かりにくい、この場面には何の関係もない会話をしているように思える。しかし、*full moon* には病院俗語で「緊急救命室、あるいはその待合室が満員であること」を表す意味がある(Dickson 1998)。さらに、*give a moon check*

で「緊急救命室の様子を調べる」という意味があることが例文から分かる。

5. horrenderoma

She arranged a stat CT scan that showed a golf-ball-sized mass in his frontal lobe, most probably a lymphoma but possibly some other terrible *horrenderoma*.

—*The Intern Blues*, p. 140

horrenderoma という語は、「恐ろしい」という意味の *horrendous* と、「腫, 瘤」の意味を表す接尾辞の *-oma* から、いかにも病名のようにした造語である。*herrendoma* や *horrendioma* などの形もある(cf. Lighter 1997)。

類似の語に, *fascinoma* がある。これは、「魅力的な」という意味の *fascinating* と *-oma* からの造語で, 医者に興味をそそる病気や, 見聞きしたことがないような臨床的興味のある患者のことを指す(Chapman 1995, Green 1987)。

6. M. Deity

米国で人気の医学ミステリー作家 Michael Palmer の作品に, 看護婦が親しい2人の医師に向かってユーモアたっぷりに次のように話しかける場面がある。

“Sarah, Dr. Truscott,” Alma Young called out, “could one of you *M. Deities* please come help us transfer this girl?”

“I’ll be right there,” Sarah responded.

—*Natural Causes*, p. 65

「セーラ, ドクター・トラスコット」アルマ・ヤングが呼びかけた。「どちらかの医学博士さまに, この患者をベッドへ移すお手伝いをしていただければと存じますが」

「わたしがすぐ行くわ」セーラは応えた。

(吉澤 訳)

邦訳で「医学博士さま」となっている原文の *M. Deities* は一般の辞書にはない分りにくい語である。これは「医学博士」を表す *medical doctor* と, 「神様」を表す *deity* からの造語 *M. Deity* の複数形である(cf. Konner 1987)。

7. NICHD

米国保健福祉省(the Department of Health and Human Services)の管轄機関に, NIH という略語でよく知られる国立衛生研究所(National Institutes of Health)がある。この研究所には, 18の研究所などがあり, その中の一つに小児健康発達研究所(National Institute of Child Health and Human Development)がある。

“Being in child care doesn’t put children at a disadvantage,” Sarah Friedman, a researcher at the National Institute of Child Health and Human Development(NICHD) said Friday.

—*CNN News*, April 4, 1997

ところで, この研究所を表す略語は, 頭文字からすると *NICHHD* となるはずで, Segan (1995)や Anderson(1998)などの米国の医学用語辞典でもそうになっている。しかし, 例文では *NICHD* となっており, インターネット上のこの研究所のホームページ(<http://nih.gov/nichd/home.html>)でも *NICHD* が使われている。念のためこの研究所に確認すると, *NICHHD* より *NICHD*の方が言いやすく, また見た目もいいので2つ目のHを取って *NICHD*を正式に使っているということである(Connie Hamilton, Secretary, Office of the Director, NICHD. Personal communication, July 23, 1998)。

8. Nu Gauze

医学小説でなくとも一般のミステリー小説に医学関連の用語が数多く登場することは, 次の邦訳を読んだだけでもよく分かる。

「一般的には、血のかよった健康的な組織がでてくるまでまた創面切除をほどこします。それから生理食塩水で傷を洗浄して、ガーゼをあてます。1日に2回おこなっている高圧酸素治療は今後もつづけます。総合的な非経口栄養補給もおこなったほうがいいと思います」

(相原 訳)[下線は筆者]

さて、この場面で登場する「ガーゼ」であるが、原文を見るとこれがただの「ガーゼ」ではなく、商品名の *Nu Gauze* が使われていることが分かる。

“Generally, at this stage, the wound is debrided again down to bleeding, healthy tissue. We'll probably irrigate with saline and pack the wound with *Nu-Gauze*. We'll continue with hyperbaric oxygen therapy twice a day, and I recommend total parenteral nutrition.”

—*Hornet's Nest*, p. 278

これは、米国 Johnson & Johnson Consumer Products, Inc. 製で、病院や救急車に備えられているが、ドラッグストアなどでも販売されているのを日常的に見ることができる。滅菌された(sterile)タイプと非滅菌の(non-sterile)のタイプの2種類がある。



資料3 *Nu Gauze*

9. OPD

The more I've thought about it, the more I've realized that pulling us from the subspecialty clinics during our *OPD* rotations is going to make us less effective doctors....

—*Rotations*, p. 185

OPD は, *Outpatient Department* を表す略語である。つまり、病院の中の、緊急救命室(emergency room)と一般外来(clinics)を含む部門のことである。

10. physsies

When I arrive in the morning, I look at the list of babies who were born the night before. All of these kids need to have *physsies*.

—*The Intern Blues*, p. 207

新生児の健康診断(physical examination)のことを *physsies* と呼ぶことがある。これは、*physical* + *-ies*(「かわいいもの、ちいさいもの」の意味を表す接尾辞 *-ie* に複数形の *-s* を付けたもの)から出来上がったものだと考えられる。

11. scut

医学生やインターンがするつまらない、患者のケアとは直接関係ないような仕事を *scut* または *scut work* と呼ぶ。その仕事の内容はさまざまで、次の例文にあるものの他に、ナース・ステーション(nurses' station)の掃除をしたり、雑誌論文のコピーをしたり、ピザを買いに行かされることもある。そのような仕事をさせられる医学生やインターンを *scut monkey* あるいは *scut doggie* と呼ぶこともある(cf. Segan 1995)。

Most interns will tell you that *scut* is the sole reason for their existence. *Scut* includes blood drawing, IV starting, the tracking down the lab results, the ordering of diagnostic

tests, the calling of consulting services, and finally the writing of progress notes. Most of this stuff is sheer frustration and takes hours and hours to complete. While “running the *scut*” the intern also is responsible for teaching his medical student about pediatrics.

— *The Intern Blues*, pp. 78–79

12. zebra hunter

“If you hear horse’s hoofbeats going by outside, don’t look for zebras.” (「ひずめの音が聞こえたらシマウマをさがすな」という諺がある。これは、病気の診断を下す場合は論理的なアプローチをすべきであり、とっぴな診断に飛躍してはならない、ということを医学生に教える場合に使われるものである。つまり、「ひずめの音」が聞こえたら「馬」だと考えるのが普通で、アフリカにしかない「シマウマ」だと考えるべきではないということである。これに関連して、誰が見てもどこが悪いのかが明らかな患者に、ありそうもない不可解な診断を下す医者のことを *zebra hunter* と言う。

Only a *zebra hunter* would guess that this case was anything other than what it obviously was: a healthy man with a rod sticking out of his neck who has lost so much blood that his heart has stopped.

— *Emergency Room*, p. 30

Ⅲ. 結 論

現代小説、ノンフィクション、新聞、雑誌などに登場する、あるいは米国の日常生活の中で見かけるが辞書などに情報が不足している医療語を取り上げて検討した。この種の研究が無意味でないことは、次の不十分な邦訳を見ても明らかである。

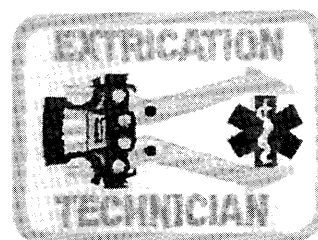
The car had careened through a snowbank and then the guardrail, sailed nearly fifty

yards over an embankment, and then crashed into the base of a tree. The *jaws of life* had been needed to extricate him from the wreck.

— *Extreme Measures*, p. 29

(その車は)雪の吹きだまりを乗り越え、ガードレールを突き破り、50ヤードほども土手を落ちて、木の根元に激突したのだという。生命を救うために、まず目茶目茶になった車から彼を救い出さなければならなかったが...[後略] (林 訳)

原文にある *jaws of life*(または *Jaws of Life*) については、すでに山田 (1990) が取り上げ、『リーダーズ・プラス』や『ランダムハウス英和大』にも収録されている。しかしこの邦訳では、救出場面で使われるこの器具のことが全く無視されていて原文の表す状況を読者に正確に伝えているとは言えない。これは事故現場で、*extrication specialist*, または *extrication technician* と呼ばれる人が使う器具である。ユニフォームに次のようなエンブレムを付けている場合もある。



資料4 *extrication technician* のエンブレムに描かれた *Jaws of Life*

田中(1998)では、この器具名が一般の人が日常的に読む新聞記事にもたびたび登場することを示した。つまり、医療に関連する語であっても、一般の人が小説や新聞の中で接する場面が多くなってきているのであり、したがって、このような医療語についての調査・研究が現代英語の研究として重要なのである。

Texts:([]内は本文で使用了略語)

- Cornwell, Patricia D., *All That Remains*. Avon Books, 1993.(相原真理子 訳,『遺留品』講談社, 1993) [*All That Remains*]
 _____ *Hornet's Nest*. G.P. Putnam's Sons, 1996.
 (相原真理子 訳,『スズメバチの巣』講談社, 1998) [*Hornet's Nest*]
 Marion, Robert, *The Intern Blues: The Private Ordeals of Three Young Doctors*. Fawcett Crest, 1989. [*The Intern Blues*]
 _____ *Rotations: The 12 Months of Intern Life*. HarperCollins Publishers, 1997. [*Rotations*]
 Palmer, Michael, *Extreme Measures*. Bantam Books, 1992.(林 克己 訳,『ボディ・バンク』福武書店, 1997) [*Extreme Measures*]
 _____ *Natural Causes*. Bantam Books, 1995.
 (吉澤康子 訳,『D. I. C. 血管内凝固症候群』福武書店, 1998) [*Natural Causes*]
 Sachs, Dan (ed.), *Emergency Room: Lives Saved and Lost: Doctors Tell Their Stories*. Little, Brown and Company, 1996. (玉木 亨 ほか 訳,『緊急救命室: 医師たちが語る生と死のドラマ』朝日新聞社, 1998) [*Emergency Room*]

参考文献

- 『小学館ランダムハウス英和大辞典』第2版。小学館。1994。[『ランダムハウス英和大』]
 『リーダーズ・プラス』研究社。1994。
 Anderson, Kenneth N. (ed.) (1998), *Mosby's Medical, Nursing, and Allied Health Dictionary*.

- Fifth edition. St. Louis, Missouri : Mosby-Year Book.
 Chapman, Robert L.(ed.) (1995), *Dictionary of American Slang*. Third edition. New York : HarperCollins Publishers, Inc.
 Cowan, James and Lois Cowan (1998), *Lights & Sirens : A Writer's Guide to Emergency Rescue Professions*. Cincinnati, Ohio : Writer's Digest Books.
 Dickson, Paul(1998), *Slang : The Authoritative Topic-by-Topic Dictionary of American Lingoes from All Walks of Life*. New York : Pocket Books.
 Green, Jonathon (1987), *Dictionary of Jargon*. New York: Routledge & Kegan Paul.
 Konner, Melvin (1987), *Becoming a Doctor : A Journey of Initiation in Medical School*. New York : Penguin Books.
 Lighter, Jonathan Evan(ed.) (1997), *Random House Historical Dictionary of American Slang*. Vol. 2. New York : Random House.
 Pourroy, Janine (1995), *Behind the Scenes at ER*. New York : Ballantine Books.
 Segan, Joseph C.(1995), *Current Med Talk : A Dictionary of Medical Terms, Slang, & Jargon*. Stamford, Connecticut : Appleton & Lange.

- 田中芳文(1997),「現代アメリカ英語における医療語」『時事英語学研究』第19号, pp. 22-31。
 _____ (1998),「アメリカ英語の諸相-救出場面における医療語」『英語教育と英語研究』第15号, pp. 87-109。
 山田政美(1990),『英和商品名辞典』研究社。